



日本文化デザイン会議2007兵庫豊岡会議

「コウノトリ・リ・デザイン」

～文化力による循環環境の再生～

参加者
募集

日本文化デザイン会議は、文学・哲学・建築・映像・評論など、広く社会・文化をデザインする多彩な分野からの専門家120人が自発的に集まり、日本のこれからのに向けての「リ・デザイン(再生)」をテーマに社会や文化に新しい角度から働きかけ、情報を発信していこうという取り組みを行っています。

開催日 11月23日(金・祝)

「コウノトリの舞・米・マイツアー」
～豊岡の食材を活かした提案～

豊岡の豊かな自然が育んだオーガニック(有機、無農薬)なお米を、「食」の専門家たちがアレンジします。

時間 11:00～13:30

場所 県立コウノトリの郷公園ほか

定員 50人(先着順) 参加費 無料

シンポジウム

「オーガニック食サミットの提言」

都市・ヒト・自然のさらなる豊かな関係についてさまざまな分野のスペシャリストによる自由な発想で語り合います。

時間 14:00～17:45

場所 豊岡市民プラザほっとステージ

定員 250人(先着順) 参加費 無料

パネルディスカッション

パネリスト(予定・敬称略)

若林広幸(建築家)、稲本健一(株ゼットン代表取

締役)、井上章一(国際日本文化研究センター教授)、宮本リンメイ(地域ブランディングプロデューサー)、門上武司(アマカラ手帖編集長)、速水 亨(林業家)、山田真美(作家)、横川 潤(食評論家)、園山真希絵(料理研究家)、中貝宗治(豊岡市長)

「夜楽塾」

「豊岡への想い」をテーマにパネリストと語り合います。

時間 18:30～20:00

場所 未定(後日、参加者へ連絡します)

定員 50人(先着順) 参加費 飲食費実費

申込期間 10月25日(木)～11月15日(木)

申込方法 電話、ファックスまたはメールで申し込みください。

《問合せ》

「ツアー」・「シンポジウム」

都市整備課交通政策係 FAX22 - 1839

メールアドレス toshi@city.toyooka.lg.jp

「夜楽塾」

(社)豊岡青年会議所 ☎22 - 4041 FAX22 - 1748

メールアドレス kithjc@pearl.ocn.ne.jp

新庁舎建設市民検討委員会の委員を募集します

現在の市役所本庁舎は昭和2年に建築され、施設の老朽化や事務室等の分散化、そして狭いこと等により市民サービスと事務効率の低下を招いています。



このため、本庁舎の建設に向けて検討する「新庁舎建設市民検討委員会」を設置し、その委員を募集しますので、応募ください。

なお、市民検討委員会の委員は、公募のほか市内の公共的団体等から推薦いただく方や学識経験者の計15人程度を予定しています。

市民検討委員会委員の役割 次の事項について月1回程度開催予定の委員会で検討し、市長に報告書(意見書)を提出していただきます。

新庁舎の機能、規模および施設計画に関すること
新庁舎の建設位置に関すること

募集人員 3人程度(書類審査により選考)

任期(予定) 11月から基本構想・基本計画策定の時期(平成21年3月ごろ)まで

応募資格

20歳以上(平成19年11月1日現在)で、市内在住または在勤・在学の方

この委員会の趣旨に関して、意見・提言をお持ちの方

平日に開催する会議および視察に参加できる方
地方公共団体の議員または常勤の公務員でない方
特定の意見に偏らず、市民の視点から客観的、公平な審議ができる方

暴力団の構成員またはこれに準ずる者でない方

応募方法 新庁舎建設推進室および各総合支所総務課にある所定の応募申込書(市のホームページからダウンロードすることもできます)に、住所、氏名、応募理由などを記入の上、直接持参してください(新庁舎建設推進室へは、郵送またはメールも可)。応募に係る経費は、すべて応募者の負担とします。応募書類は返却できませんので、了承ください。詳細は募集要項をご覧ください。

申込期限 11月7日(水)必着

選考方法 提出された応募申込用紙により選考し、選考結果は郵送で応募者全員に通知します。

《申込み・問合せ》 新庁舎建設推進室

メールアドレス shinchousha@city.toyooka.lg.jp

平成18年度決算のあらまし

平成18年度決算は、一般会計と国民健康保険・介護保険などの特別会計を合わせた総額で、歳入742億6540万円、歳出721億8577万円となりました。また、一般会計の市債残高は、678億3048万円となり、市民一人当たり約74万6千円に上っています。

《問合せ》財政課

一般会計	
歳入	493億5149万円
歳出	479億4103万円
特別会計	
歳入	249億1391万円
歳出	242億4474万円

一般会計の決算

一般会計の歳入のうち、市税は98億2818万円で、全体の約20%となりました。歳入のうち最も大きなものは地方交付税で、全体の約34%を占めています。また、借金である市債も66億5130万円借りました。

市の歳入は、市税など市独自で収入する自主財源が全体の約36%で、残りは地方交付税など国や県からの収入や借入金に頼っているため、国の

制度改革の動きに大きく影響されます。

歳出では、福祉関係の経費である民生費が最も大きく88億3866万円、これに土木費が79億6852万円、次いで総務費が78億4172万円と続いています。また、借金

の返済にあたる公債費にも75億3890万円使いました。なお、平成18年度末の一般会計の市債残高は、678億3048万円となり、市民一人当たり約74万6千円に上っています。

そのため、10月10日発行の市広報でお知らせしたように、平成19年度の実質公債費比率は、19・7%と国の基準の18%を超えることとなりました。策定済の財政計画でも、同比率が高くなった要因を織り込んだ上で、今後10年間、財

市民1人当たりの決算（一般会計）				
依存財源 64%	地方債(借入金)	73,155円	公債費(借入金返済)	82,918円
	その他国県からの収入	30,765円	その他の経費	42,584円
	国県支出金	58,544円	農林水産業費	19,872円
	地方交付税	184,274円	衛生費	54,862円
自主財源 36%	使用料その他市の独自収入	72,042円	教育費	55,946円
	基金等からの繰入	15,924円	総務費	86,249円
	市税	108,097円	土木費	87,643円
			民生費(福祉関係)	97,214円
歳入		542,801円	歳出	527,288円

平成19年3月末の住民基本台帳人口(90,920人)に基づき計算しています。

政が成り立っていくように計画していますので、今後のまちづくりには大きく影響を及ぼすものではありません。

ただし、市債残高は人口規模等が類似した他市に比べ大きくなっていますので、繰上償還などを行い、市債残高の減少に努めていきます。

公営企業会計の決算

市の公営企業には、水道事業・下水道事業・農業共済事業があります。

水道事業は、豊岡・城崎・日高・出石の約2万5千戸、7万1千人に給水を行っています。平成18年度の決算は、594万円の黒字となりましたが、水需要の伸び悩みなどにより前年度と比べ1億376万円減少し、料金単価は原価(コスト)を下回っている状況です。

竹野・但東および豊岡・日

水道事業	
収入	15億4806万円
支出	15億4212万円
純利益	594万円
下水道事業	
収入	50億6805万円
支出	48億287万円
純利益	2億6518万円

高・出石の一部約6千戸、2万人は、別の簡易水道事業(特別会計)としています。下水道事業は、約97%の整備を完了し、供用開始戸数約3万1千戸、人口8万9千人となりましたが、水洗化率は約83%にとどまっています。平成18年度の決算は、2億6518万円の黒字となりましたが、前年度からの欠損金があり、累積欠損金は4億3247万円と厳しい財政事情となっています。

また、農業共済事業会計の決算は、収入総額2億930万円、支出総額1億9997万円。共済金の支払額は、家畜共済5433万円、水稲共済384万円など、総額5964万円でした。

一般会計：教育、福祉、消防、道路・公園の整備など、市の基本的な事業に関する会計です。

特別会計：特定事業を特定の財源で賄うための会計です。企業会計：水道や下水道事業など企業の性格(独立採算制による経営など)を持つた事業を運営する地方公営企業の会計です。